

自動車安全技術プロジェクトチーム 第7回会議の概要

1 開催日時等

日時：平成28年3月18日（金）午後2時30分～4時30分

場所：愛知県自治センター 12階 E会議室

出席者：

愛知県知事 大村秀章

【企業】 浅田 浩之 三菱自動車工業(株) 車両先行研究部長
石尾 渉 オムロンオートモーティブエレクトロニクス(株) 開発統括室技術開発部長
河野 慎司 アイシン精機(株) 走行安全技術部長
菅沼 正行 中部日本自動車学校 常務取締役
樋口 正浩 (株)デンソー ADAS推進部 事業推進室長
松永 栄樹 (株)アドヴィックス 制御第2技術部理事
山本 昭雄 トヨタ自動車(株) ITS企画部長

【大学】 小栗 宏次 愛知県立大学 情報科学部 教授
鈴木 達也 名古屋大学 大学院工学研究科理工学専攻 教授

【行政】 国土交通省中部運輸局、豊田市都市整備部交通政策課、愛知県警察本部、
愛知県産業労働部、振興部、県民生活部、建設部

2 議事概要

- 知事挨拶の後、事務局、各メンバーよりプロジェクトチームとしての取組状況及び関連の取組について報告を行った。
- プローブ情報活用WGの効果検証、事故分析WGの分析結果などの報告の後、意見交換を行った。主な発言は以下のとおり。

【主な発言】

- プローブ情報活用WGについては、道路交通対策を行うと効果があり、すべての対策が車だけではないと、感じさせる良い事例だと思った。
- 事故分析WGに参加しているが、県警の協力によりマイクロデータでできるということもあり、どのようなシーンで事故が起きているのかということが分かるのは有効である。
- ドライバーの運転不能状態をドライバーモニターで検知して路肩に退避するシステムは、周辺監視技術が大変重要で、周囲の安全確認がきちんと保証できた段階で初めて実用化できるものであり、このような安全システムの方向性も意見交換させていただきたい。
- 自動ブレーキをこれから普及させていくには性能・信頼性を確保することと、普及できるようにコストダウンをしていかなければいけないと議論している。
- 自動走行というルールが変わるチャンスこそが愛知の交通事故ワースト1を脱するチャンス。道路・ドライバー等様々な合わせ技で事故を減らしていく必要がある。
- 豊田市でもプローブ情報の活用を研究していて、平成28年度に実際の道路の対策に活用していく。対策したところで効果が出れば、他の自治体も活用を広げてほしい。